

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 一人ひとりの個性の伸長を図る教育活動により、将来社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される学校をめざす。
1. 生徒一人ひとりが、自分の持つ能力を十分に発揮できるよう、学習指導、生徒指導、キャリア教育を推進する。
  2. 守るべき規範と果たすべき役割を自覚し、社会に貢献する志を持つ生徒を育成する。
  3. 中学校との連携、保護者や地域との連携を推進し、地域での存在価値と信頼感を高めていく。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付ける。

ア 「授業改善チーム」を核に、観点別学習状況の評価を進めるとともに授業改善に努める。

イ 「主体的、対話的で深い学び」の実現をめざし、生徒の主体的な授業参加をめざす。

※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(R1:77.0% R2:79.3% R3:82.9%)を上昇させ、令和6年度には85%程度を維持する。

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(R1:63.7% R2:70.3% R3:75.1%)を上昇させ、令和6年度には80%程度を維持する。

(2) 学習支援体制の構築

ア 教科による基礎学力診断テストの効果的な活用

イ 学力定着のための補習や進路実現のための講習を計画的に実施する。

## 2 キャリア教育の推進

(1) キャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる。

ア 外部の基礎学力診断テストの効果的な活用をめざし、進路を切り拓く生徒の育成に取り組む。

イ 生徒自らが強い意志と責任のもと進路決定ができるよう3年間を見通したガイダンス機能の充実を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度(R1:81.7% R2:84.4% R3:85.5%)を80%以上維持する。

※ 進学決定率(R1:93.5% R2:93.3% R3:100%)を維持し、令和6年度には95%程度を継続する。

※ 保護者向け学校教育自己診断における進路指導満足度(R1:86.2% R2:86.5% R3:82.9%)を令和6年度には90%程度にあげ、進路情報満足度(R1:81.5% R2:82.9% R3:83.3%)は令和6年度で85%以上を維持する。

※ 学校紹介就職内定率(R1:100% R2:100% R3:100%)を継続させる。

## 3 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実と安全・安心な学校生活の推進

(1) すべての教育活動を通じて規律規範の確立、公共のルールやマナーを守る社会性の育成を図る。

ア あいさつ、時間厳守、身だしなみ等、規範意識の醸成を図る。

イ 交通マナーの向上を図る。

※ 遅刻者数については、(R1:2902件 R2:2465件 R3:2358)をさらに減少させ、令和6年度には2000件以下とする。

(2) 生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育を実践する。

ア 学校行事や生徒会活動を通じて生徒の主体的な参加推進を図り、地域連携及び地域貢献を推進する。

イ 部活動の活性化に向けた取組みを推進する。

(3) 安全で安心な学校生活の推進

ア **新型コロナウイルスの感染症対策を徹底しながら、保護者や関係機関と連携して、学習活動、学校行事、部活動等の教育活動を継続する。**

イ 人権教育の取組みを通して生命やお互いを大切にすることを育て、人権侵害を許さない学校体制づくりを進める。

ウ 情報リテラシーの育成を図り、情報社会における正しい判断や望ましい態度等、情報モラルの向上に努める。

エ 学校保健・安全指導と教育相談体制の充実を図る。

## 4 学校力の向上

(1) 地域に信頼される学校づくりをめざすため、活発な広報活動の推進を図る。

ア 中学校訪問、学校説明会等を組織的、計画的に実施し、本校教育内容の周知を図る。

イ HP・メルマガの充実を図り、保護者等からの理解を得るとともに協力体制をさらに充実させる。

ウ PTA活動を推進し、学校行事への保護者及び地域からの参加の促進を図る。

(2) 組織的、計画的な学校運営体制の構築を図る。

ア 運営委員会を中心に機動性を高め、各学年・分掌等の組織力強化を図り校務運営の充実を図る。

イ 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
○生徒向け学校教育自己診断 ・すべての項目で2年生の肯定的回答率が低かった。 →学年間で指導の違いがでていないのではないかと考える。改善が必要。 ・人権について、交通安全、交通マナー、災害時の行動、情報モラルなどが身についたという肯定的回答率が上がった。 →講演や訓練等が開催できたことで上がったと考えられる。 ・先生が親身になって話を聞いてくれるという項目が前年度より下がった。 →話しかけやすいとの回答は上がっているので、対応を改善したい。	第1回令和4年7月8日(金) ・小学校でのICT機器の活用は振り返りなどを全員で共有したりしている。 ・中学校で10月28日にICTを使った公開授業を行うので見に来てほしい。 ・生徒の悪いところばかりではなく、よいところを見てしっかり伸ばしてほしい。 ・親からの意見としては、配付物などメールで来ると気づきやすい。 第2回令和4年11月16日(水) ・学校教育自己診断の生徒アンケートの結果より、肯定的回答で3年生が高く、2年生が低いことについて分析が必要である。学年の雰囲気があるのだろう。

<p>○保護者向け学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事に関する肯定的回答率が上がったが、それ以外すべての項目で前年度を下回った。</li> <li>→前年度6月に行った調査を本年度は11月に行ったことで、半年間見てきて感じられた意見だと真摯に受け止めたい。</li> <li>・特に情報発信に関する項目が50%台であった。</li> <li>→昨年度以上に情報発信をしてきたが、保護者に伝わっていなかった。PTA会長からもプリント配付ではなく、個人メール等への情報発信を勧められた。</li> </ul> <p>○教員向け学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の精選・工夫を行ったとする回答が93.1%であった。</li> <li>→教員は生徒にあった教材を取り入れようと日々工夫している。</li> <li>・人権尊重にもとづいた指導を行っている回答が95.5%であった。</li> <li>→人権意識、人権感覚が上がっていると感じる。</li> <li>・きめ細かい指導を行っているという回答が84.1%であった。</li> <li>→R2年度94.4%あり、教員の指導について見直す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断のいじめについては評価が高い。生徒に寄り添っているのがあらわれている。</li> <li>・授業見学をして、机の上に荷物が多いたのが気になった。プリントで授業をしていると荷物が増えるのでペーパーレスにしていくのはどうか。</li> <li>・授業見学で、生徒の意欲にばらつきがあり、先生の苦労が感じられた。</li> </ul> <p>第3回令和5年2月8日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPのアクセスカウントは取れますか。毎日100カウントほどあり、門西たよりを出すと500カウントほど見ている。「素晴らしい。」</li> <li>・昨年と比べて交通マナーがよくなり、苦情はない。交通指導で立っている効果があった。</li> <li>・きめ細かい指導については、個々の基準に幅がある。職員室のワイワイもイメージの共有ができる。</li> <li>・令和5年度の学校経営計画の中期的目標について確かな学力とは難しい。PCを使うことが目的ではなく、PCを使って何をするかである。</li> <li>・小学校でPCを使って発表をしている。中学校でもPCを使った授業をしている。小中学校と連携を取らないと、子どもたちはすでにやっていることを1から始めることになる。高校の先生が思っているより生徒はPCが使いこなせる。教員がそれを知っておくことが必要。</li> </ul>
--	--

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [ R3年度値 ]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業改善の取組み。 ア 「授業改善チーム」が主体となり、授業力向上のための研修計画を立案し、全教職員が授業改善に取り組む。  イ 学びを深める授業を探求するとともに生徒のコミュニケーション力の育成を図る。	(1) アイ・授業改善のための教職員研修を年間2回実施し、授業規律の共有や研究授業・研究協議を通じた授業スキルの向上に努める。 ・授業見学月間を1・2学期に設定して学びを深める授業をめざし、観点別学習状況の評価を進めるにあたり、学校全体で検討する機会を増やし、指導と評価の一体化の観点から授業改善に取り組む。 ・継続してユニバーサルデザインや主体的・対話的で深い学びを意識した教育環境・授業づくりを学校全体で構築する。	(1) アイ・授業アンケートにおける興味関心、知識技能満足度 80%以上維持 [82.9%]。 ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の肯定率 70%以上を維持する。[72.2%] ・教員向け学校教育自己診断の「学習指導方法の工夫改善」で昨年度の肯定値と同等以上をめざす。[79.6%] ・授業アンケートでの第1回と第2回の改善率を上げる。[3.23→3.23]	(1) アイ ・授業アンケートにおける興味関心、知識技能満足度 81.9% (○) ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の肯定率 70.9% (○) ・教員向け学校教育自己診断の「学習指導方法の工夫改善」の肯定率 88.6% (◎) ・授業アンケートでの第1回と第2回の改善率を上げる。 3.21→3.19 (△) すべての項目でポイントを下げたり、年度内での改善ができなかった。 ウ・授業でのICT活用頻度 86.4% (◎)
	ウ 継続したICT機器の活用の推進をめざす。	ウ・パソコン・タブレット型端末の活用頻度を上げ、1人1台端末の活用を定着させる。	ウ・ICT活用を実践している授業を積極的に公開し、教員が相互見学することによって、授業でのICT活用頻度8割以上を維持する。[79.5%]	
	エ 授業規律の徹底指導	エ・授業での目標明示と振り返りの実施を全授業において行う。 ・すべての教員が統一した指導方針を共有し、一貫した授業規律の徹底を図る。	エ・授業観察時の「授業目標」「振り返り」の提示 80%程度。[82%] ・生徒向け学校教育自己診断における授業規律の肯定率で前年度を上回る。[81.9%]	エ・授業観察時の「授業目標」「振り返り」の提示 85% (○) ・生徒向け学校教育自己診断における授業規律の肯定率 81.5% (△) 1・2年生が低いが3年生は87.6%と高く、1年生からの指導は実っている。
	(2)学習支援体制の構築 ア 外部の基礎学力診断テストの効果的活用方法に関係教科で検討する。  イ 個に応じた学習指導の実践に努める。	(2) ア・生徒の個々の学力の伸長を客観的に把握する。 ・1年生から各種資格取得のための検定試験に向けた講習を積極的に実施し、各検定受検者の割合を増加させる。  イ・学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を各学年、教科、教務部、進路指導部を中心に計画的に実施する。 ・各種資格取得のための検定試験に向けた講習を積極的に実施し、講習参加者及び検定受検者の割合を増加させる。	(2) アイ・各種検定〈漢字・数学・英語・ワープロ〉取得のための受検者数の割合を前年度比以上に増加させる。[89名：在籍者比15.7%]  ・開講する講習、補習等は前年度数を維持する。[進学講習65日][検定講習46日] ・教員向け学校教育自己診断の、興味・関心・適性に応じたきめ細かい指導の肯定値を同程度維持する。[85.7%]	(2) アイ ・各種検定〈漢字・数学・英語・ワープロ〉取得のための受検者数 35名 4.7% (△) ・開講する講習、補習等は前年度数を維持する。進路部主催5日 (△) ・教員向け学校教育自己診断の、興味・関心・適性に応じたきめ細かい指導の肯定率 84.1% (△) 教員の自己反省があらわれており、来年度の改善につながる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 キャリア教育の推進</p>	<p>(1) 生徒の進路選択の可能性を広げる指導体制の充実を図る。</p> <p>ア 外部の基礎学力診断テストの効果的な活用をめざし、進路を切り拓く生徒の育成に取り組む。</p> <p>イ 1年時から卒業後の進路実現に向けたガイダンス体制の充実を図る。</p> <p>ウ 保護者や地域に適切な進路情報を提供する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部模試等を計画的に立案、実施する。</li> <li>・各学年で基礎学力診断テストの活用(保護者面談・進路決定)を図る。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員はじめ、外部指導者等様々な面接官による模擬面接を個人または集団の形式で実施することで実践力を身に付けさせる。</li> <li>・就職学習会をはじめ綿密な事前指導を重ね、応募前職場見学により生徒の希望と受験事業所とのミスマッチを防ぐ。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HP・メルマガを有効活用し進路情報の提供をおこない、保護者との進路スケジュール等の共有を図る。</li> <li>・進学希望者及びその保護者対象に進学資金説明会、奨学金説明会等早くから取り組み、進路実現を支援する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育満足度を前年度と同等以上とする。[85.5%]</li> <li>・外部模試の受験者数が進学希望者数に応じて前年度比程度以上を維持する。[R3:延44名 在籍者数比 7.8%]</li> <li>・継続して進学決定率90%以上を維持する。[100%:最終値]</li> <li>・進路未決定者15%以下を維持する。[16.6%:最終値]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校紹介就職希望者の就職内定率100%を維持する。[100%]</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け学校教育自己診断における「進路についての必要な情報をよく知らせてくれる」に対する肯定的回答が前年度と同程度以上とする。[83.3%]。</li> <li>・保護者向け学校教育自己診断における「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」に対する肯定的回答が前年度と同程度以上とする。[82.9%]</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育満足度85.2%(○)</li> <li>・外部模試の受験者数が進学希望者数(延31名 在籍比 5.9%)(△)</li> <li>・進学決定率98.2%(○)</li> <li>・進路未決定者7.9%(○)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校紹介就職希望者の就職内定率100%(○)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け学校教育自己診断における「進路についての必要な情報をよく知らせてくれる」に対する肯定的回答59.0%(△)</li> <li>・保護者向け学校教育自己診断における「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」に対する肯定的回答66.4%(△)</li> </ul> <p>情報については進路便りやHP等で公開している。また、3年間を通してのガイダンス等を行っているが、その情報が保護者に伝わっていないと考えられる。</p>
--	--	--	---	--

<p>3 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実と安全・安心な学校生活の推進</p>	<p>(1) 規律規範の確立 ア あいさつ、時間遵守、身だしなみ等、規範意識の醸成を図る。</p> <p>イ 交通マナーの向上。</p> <p>(2) 生徒の自主的活動の支援 ア 学校行事や生徒会活動の主体的な参加促進。</p> <p>イ 部活動の活性化に向けた取組みの推進。</p> <p>ウ 高大連携校との活用促進。</p> <p>(3) 安全で安心な学校生活の推進 ア 新型コロナウイルスの感染症対策を徹底し、継続する。</p> <p>イ 生命や人権を大切にすることを育てる。</p> <p>ウ 保健・安全指導と教育相談体制の充実。</p>	<p>(1) ア・生徒指導に関するお願いや情報を学校 HP や一斉メールで保護者に配信、PTA の協力を得るなどして学校と保護者とが連携した指導をおこなう。</p> <p>イ・年間通して外部機関等を活用して自転車乗車マナーの向上を図る。</p> <p>(2) ア・生徒指導部・西高祭委員会を中心に、継続的に学校行事の見直しを図り、新型コロナ対策を踏まえた内容や実施方法(生徒からの意見聴取、学年別実施等)を立案し、生徒・保護者の満足度を高める工夫をする。</p> <p>イ・部活動の継続を支援するため、入部機会の拡充を図る。 ・安全・安心に部活動ができるよう環境整備に努める。 ・全部活動が共通した目標を掲げ、高校での部活動の重要性を近隣中学校の部顧問に働きかける。 ・門真西高カップの継続により、中学校との交流機会をさらに広げ、部活動の活性化を図る。</p> <p>ウ・高大連携校との情報共有を密にする。</p> <p>(3) ア・マスクの着用、健康観察、換気及び3密の回避などの感染予防対策を徹底する。 ・新型コロナウイルス感染症に対する正しい予防知識について生徒・保護者に啓発する。</p> <p>イ・現状の課題解決に向けた人権教育計画となるよう見直しをおこない、職員会議での周知やセルフチェックを徹底し、人権 HR、職員研修を充実させる。 ・携帯情報端末(スマートフォン等)や SNS 上での、正しい知識と安全な使用方法を身に付けるよう講演会や集会などを通じて生徒や保護者に啓発する。また学校支援クラウドサービスを活用した取り組みを行う。 ・教育相談委員会、中退防止連絡会を中心に、SC、SSW、関係機関との連携を推進し、相談活動をさらに充実させるため、教育相談に係る職員研修を計画的に実施し、教員の個別相談スキルを高める。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を確立し、「高校生活サポートカード」「個別的教育支援計画」の適切な活用を図る。</p> <p>ウ・教職員の救急講習会全員参加を継続する。 ・防災教育の新たな取組みとして学校支援クラウドサービスを活用する。 ・保健部を中心に、生徒に「自分の健康(命)は自分で守る」という意識の醸成を図る。</p>	<p>(1) ア・遅刻者数の前年度比減。[R3:1998人] ・保護者向け学校教育自己診断の生徒指導方針の理解が前年度と同程度以上。[87.7%]</p> <p>イ・自転車乗車マナーが向上したと感じている生徒割合が前年度と同程度以上。[77.0%]</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度を60%程度以上に上昇させる。[50.9%]</p> <p>イ・部活動加入の機会拡充を図り[4月・11月]、部加入率を上昇させる。[38.8%] ・熱中症やケガ等部活動による事故の未然防止のための啓発や講習会を学期に1回実施する。[計2回] ・各部活動が近隣中学校との合同練習や、SNS 等での積極的な発信を通して、情報交流を行う。[SNS:3部活動] ・門真西高カップ(4種目)を発展継続し、さらに中学校の部活動との交流機会の拡充をめざす。[男女バスケット、サッカー、ラグビー4種目ともコロナのため中止]</p> <p>ウ・連携校との企画・協力(学校見学・説明会・出前授業・部活交流など)を年間1回以上継続する。[1回]</p> <p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断における生徒の健康・安全に対する意識が前年度と同程度以上とする。[82.1%]</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断の人権尊重に基づいた指導の肯定値が80%程度以上を維持する。[71.4%] ・新入生については情報リテラシー啓発のための講演会等を早期に実施できたか。[1回]また、学習支援クラウドサービスを活用した取り組みを1回以上実施する。 ・生徒向け学校教育自己診断における「SNS等についての正しい使用、マナー向上について」の肯定率70%以上を維持し、さらに意識向上をめざす。[70.3%] ・生徒向け学校教育自己診断における「教育相談」に対する回答の肯定値が前年度の「親身に対応」77.8%、「気軽に相談」を63.6%以上になるようめざす。 ・教員向け学校教育自己診断の教育相談体制の整備の肯定率が85%程度以上を維持する。[81.6%]</p> <p>ウ・教職員の救急講習会参加100%を維持する。[100%] ・年間2回の避難訓練に加えて、学習支援クラウドサービスを活用した防災教育の取り組みを1回以上実施する。[1回] ・生徒向け学校教育自己診断における災害時の行動の把握が75%程度を維持する。[74.0%] ・生徒向け学校教育自己診断における生徒の健康・安全に対する意識が前年度と同程度以上とする。[82.1%]</p>	<p>(1) ア・遅刻者数の前年度比減。 R4:2469人(Δ) ・保護者向け学校教育自己診断の生徒指導方針の理解84.2%(Δ)保護者へ学校の情報が行き届いておらず、理解を得られなかったと考える。</p> <p>イ・自転車乗車マナーが向上したと感じている生徒割合80.1%(◎)</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度66.4%(○)</p> <p>イ・部活動加入の機会拡充を図り、部加入率を上昇させる。35.1%(Δ)仮入部の時期を秋にも設けたが、加入にはつながらなかった。 ・熱中症やケガ等部活動による事故の未然防止のための啓発や講習会を学期ごとに計2回実施した。(○) ・各部活動が近隣中学校との合同練習や、SNS 等での積極的な発信を通して、情報交流を行った。(SNS:3部活)(○) ・門真西高カップは、3種:男子バスケット・ラグビー・女子バスケットの開催にとどまった。サッカーは部員数が減り、開催ができなかった。(Δ)</p> <p>ウ・連携校との企画・協力(学校見学・説明会・出前授業・部活交流など)大学の見学に参加1回(○)</p> <p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断における生徒の健康・安全に対する意識の肯定的回答86.0%(○)</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断の人権尊重に基づいた指導の肯定値95.5%(◎) ・新入生については情報リテラシー啓発のための講演会等を早期ではなかったが、2・3年生で行った。(Δ) ・生徒向け学校教育自己診断における「SNS等についての正しい使用、マナー向上について」の肯定率75.1%(○) ・生徒向け学校教育自己診断における「教育相談」に対する回答の肯定値が「親身に対応」74.2%(Δ)「気軽に相談」70.3%(○)気軽に相談できるようになったが、親身になっていないと感じられている教員側の対応改善が必要である。 ・教員向け学校教育自己診断の教育相談体制の整備の肯定率84.1%(Δ)教員も教育相談体制について整備が必要であると考えている。</p> <p>ウ・教職員の救急講習会参加100%(○) ・年間2回の避難訓練に加えて、学習支援クラウドサービスを活用した防災教育の取り組み1回(安否確認等)(○) ・生徒向け学校教育自己診断における災害時の行動の把握76.4%(○) ・生徒向け学校教育自己診断における生徒の健康・安全に対する意識86.0%(◎)</p>
---	---	---	--	---

<p>4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上</p>	<p>(1) 広報活動の推進。 ア 中学校訪問、学校説明会等の計画的、組織的な実施。 イ HP・メルマガの充実。 ウ PTA 活動の推進、学校行事への保護者、地域住民の参加促進。  (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。 ア 学校運営体制の確立。  イ「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成。  ウ 労働安全衛生管理体制の充実。</p>	<p>(1) ア・中学校への出前授業及び学校説明会の実施要請を積極的に行う。 イ・HP の更新をはじめメルマガを有効活用し、保護者及び中学生に授業や行事等に関する情報発信をおこない門真西高校への関心度を高める。 イウ・学年・分掌・部活動等での活動状況を定期的かつ適切に情報発信を行い、保護者等の理解を得るとともに、協力体制をさらに充実させる。 ウ・三者（生徒・保護者・教員）交流委員会を活性化し、学校行事への保護者、地域からの参加を促進する。  (2) ア・コア・ミーティング（校長・教頭・事務長・首席）及び運営委員会が、学校運営の中心となるよう企画・検討・調整を図る。 ・学年連携会議（R1 新設）で学年間の連携および生徒情報の共有化を図る。 ・教職員間での連絡や周知事項の確認に校内イントラ等を活用、会議及び校務の効率化を図る。 ・学校説明会や中学校訪問時の教員配置など、業務の適正化に努めながら、ミドルリーダーの活用、育成をはかる。 イ・ハラスメントや体罰根絶のための人権研修を充実させ、生徒指導の事例研究や職員会議での周知、セルフチェックを徹底することで、教職員の人権意識・人権感覚の高揚を図る。 ・教育公務員としての自覚が一層高まるよう綱紀保持等、機会あるごとに周知し公務に対する更なる信頼確保に努める。 ・教職経験年数の少ない教員や転任者等を対象にフレッシュミーティングを実施。 ウ・一斉退庁日、ノークラブデーなどの働き方改革にかかる取り組みを徹底し、業務の効率化を図る。</p>	<p>(1) ア・参加要請のある学校説明会（中学主催、教育産業主催）にはすべて参加する。[5回] ・学校見学会及び説明会への教員の参画率 100%。[100%] ・可能な範囲で中学校訪問を実施し、昨年度以上の訪問数をめざす。[66 校] イ・1 週間に 1 度以上、HP やブログの更新の継続で年 80 回以上を維持する。[99 回：3月8日現在] 行事や保護者向け文書発送時等に合わせてタイムリーにメルマガを発信する。年 30 回以上を目標。[48 回：3月 14 現在] ・保護者向け学校教育自己診断における「学校情報の提供の努力をしている」に対する肯定的回答が前年度と同程度以上とする。[85.4%] ウ・交流委員会を学期に 2 回以上開催し、出された意見を教育活動や行事に反映させる。[現在、臨時休業のため未開催]  (2) ア・コア・ミーティング、学年連携会議の定例開催回数を同程度とする。[36 回：1 月末]、[5 回：1 月末] ・教職員向け学校教育自己診断における「日常的な情報共有」で前年度を上回る。[85.7%] ・定例職員会議が勤務時間内に終了する割合を前年度と同程度以上とする。[90.9%] ・外部研修等を積極的に活用し、ミドルリーダーを育成する。[アドバンス研修等：4 人] イ・人権教育を中心とする校内研修を計画的に年に 2 回以上実施する。[2 回] ・教職員向け学校教育自己診断の「教育活動全般における人権尊重の姿勢」で 80%程度以上を維持する。[71.4%] ・フレッシュミーティングを学期 1 回以上開催[3 回] ウ・時間外勤務が月 80 時間以上の職員の数減らす。[延 7 名]</p>	<p>(1) ア・参加要請のある学校説明会（中学主催、教育産業主催）には 8 回すべて参加した。(○) ・学校見学会及び説明会への教員の参画率 100% (○) ・可能な範囲で中学校訪問を実施し、103 校と昨年度以上の訪問数となった。(◎) イ・1 週間に 1 度以上、HP やブログの更新の継続 2 日に 1 回 150 回 (◎) 行事や保護者向け文書発送時等に合わせてタイムリーにメルマガを発信する。8 回 (△) 組織的に発信ができなかった。 ・保護者向け学校教育自己診断における「学校情報の提供の努力をしている」に対する肯定的回答 60.2% (△) 門西たより、HP など情報発信を増やしたが、保護者に届いていないと考えられる。 ウ・交流委員会を学期に 2 回以上開催し、出された意見を教育活動や行事に反映させる。計 6 回開催 (○)  (2) ア・コア・ミーティング、学年連携会議の定例開催回数を同程度とする。49 回 (○) ・教職員向け学校教育自己診断における「日常的な情報共有」肯定的回答 84.4% (△) 情報を共有するための会議など円滑に進められなかったと考えられる。 ・定例職員会議が勤務時間内に終了する割合 95.2% (○) ・外部研修等を積極的に活用し、ミドルリーダーを育成する。6 名 (○) イ・人権教育を中心とする校内研修 2 回 (○) ・教職員向け学校教育自己診断の「教育活動全般における人権尊重の姿勢」肯定的回答 95.5% (◎) ・フレッシュミーティングを学期 1 回以上開催 10 回 (◎) ウ・時間外勤務が月 80 時間以上の職員の数 延 17 名 (△) 8 名の教員でそのうち 5 名は 1 学期で改善された。</p>
--	---	--	--	---